

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第173号	氏名	藤城修平
学位審査委員	主査 河野通明 副査 芳本忠 副査 小路武彦		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、多くのがん細胞において機能亢進が認められる ERK-MAP キナーゼ経路が、がん治療における分子標的として有望であることを、がん細胞の運動・浸潤能制御との関連から明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>この種の研究成果を左右するがん細胞の維持、管理はもとより、細胞処理法は適切に検討されている。また、遺伝子クローニング・変異体作成・それらの細胞への導入、siRNA を用いた遺伝子ノックダウン法等を駆使し、ウエスタンブロット法による細胞内シグナル分子の機能変動と併せて、各処理後の細胞応答を詳細に解析しており、これらの手法は高く評価できる。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、ERK-MAP キナーゼ経路の選択的遮断は、がん細胞の増殖の他、運動・浸潤能の抑制においても極めて有効であることを見出し、今後のがん分子標的治療研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文はがん分子標的治療研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(薬学)の学位に値するものと判断した。</p>			